

2008年8月25日

北海道電力株式会社
社長 佐藤佳孝様

「脱原発・クリーンエネルギー」市民の会

代 表	船 橋	奈 穂 美
代 表	小 野	有 五
代 表	山 田	剛
代 表	山 田	富 士 雄
代 表	藤 門	弘

泊原発低レベル放射性廃棄物の搬出に関する申し入れ

日本がすすめるプルトニウム利用政策の基本である高速増殖炉の開発は、アメリカ、ドイツ、イギリス、フランスと次々と失敗し、日本でももんじゅが事故で運転を中止しています。さらに六ヶ所再処理工場は、2008年7月以降の操業に向けて、実質的な稼働に近いアクティブ試験の最終段階に移行したものの、高レベル放射性廃棄物のガラス固化施設での事故により、現在再開の目途が立っていません。

いま、欧米諸国では、高速増殖炉が抱える技術的、社会的困難性から、すべて撤退しています。また、プルサーマル利用についても、スウェーデンは1975年、イタリアは1977年、米国は1980年、オランダは1989年に撤退しています。再処理についても、ベルギーが2001年以降の再処理を中止、ドイツは2005年7月以降の再処理を禁止、スイスも10年間の再処理を凍結、フランスのみが継続していますが、あくまで現行の再処理工場が続くまでの限定付きとなっています。まさに、日本が進める核燃料サイクルは破綻をしていると言わざるを得ません。

しかし、日本は、核燃料サイクルに依然として固執し、保有している使い道のないプルトニウムの後始末のためだけに、国民には放射性汚染の危険性の増大をもたらすプルサーマルを2010年からの実施を強行しようとしています。

北海道電力も多くの道民の反対にもかかわらず、泊原発3号機におけるプルサーマル導入を進めようとしています。

今月27日、泊原発から発生した低レベル放射性廃棄物の六ヶ所村への搬出が予定されています。これは、六ヶ所を核のゴミ捨て場とするだけでなく、環境を破壊し人命を危険にさらすものです。

かつて泊原発から六ヶ所村に低レベル放射性廃棄物が搬出された際、また英仏に使用済み核燃料が海外輸送された際に私たちは、核燃料・核物質の移動は「重大事故の可能性」や「新たな核汚染」をもたらすことからこれに反対しました。

この考えは今日においても何ら変わるものではありません。

以上のことから 27日に予定されている低レベル放射性廃棄物の搬出にかかわり次のことを申し入れます。

北海道電力の誠意ある回答を求めるものです。

記

1. 日本が積極的に進めているプルトニウム利用、核燃料サイクルの確立は完全に破綻しています。これ以上の原発推進路線への固執は、余剰プルトニウムと人類には手に余る放射性廃棄物を生み出すだけです。
「新たな核汚染」を招く放射性廃棄物の輸送、搬出計画を即刻、中止するよう求めます。
2. 低レベル放射性廃棄物をはじめとした使用済み核燃料の今後の扱いについては、道民の納得できる方法が確立されるまで、泊原発の敷地内の低レベル放射性廃棄物貯蔵施設で厳重に保管、監視すべきです。
3. 泊原発3号機は、ウランを燃料とし設計された原子炉であり、MOX燃料を燃やすことは、「危険な実験」と言えます。また、プルサーマル計画の前提である六ヶ所再処理工場においても、トラブル発生などによる計画の変更と、活断層問題などから本格稼動の目途が立っていません。とりわけ、昨年7月に発生した新潟県・中越沖地震は、改めて地震大国・日本での原発建設の危険性を浮き彫りにしています。これらに対する、見解を求めます。
また、泊原発3号機におけるプルサーマル計画の即時中止を求めます。

以上

「脱原発・クリーンエネルギー」市民の会

ポラン広場北海道

岩内原発問題研究会

健康をつくる会

原発いらない小樽市民の輪

北海道平和運動フォーラム

生活クラブ生活協同組合

NPO 法人北海道ワーカーズ・コレクティブ連絡協議会

市民ネットワーク北海道

とまとの会

I 女性会議北海道

I 女性会議札幌

反核・反原発全道住民会議

幌延問題を考える旭川市民の会

函館・下北から核を考える会

北海道農民連盟